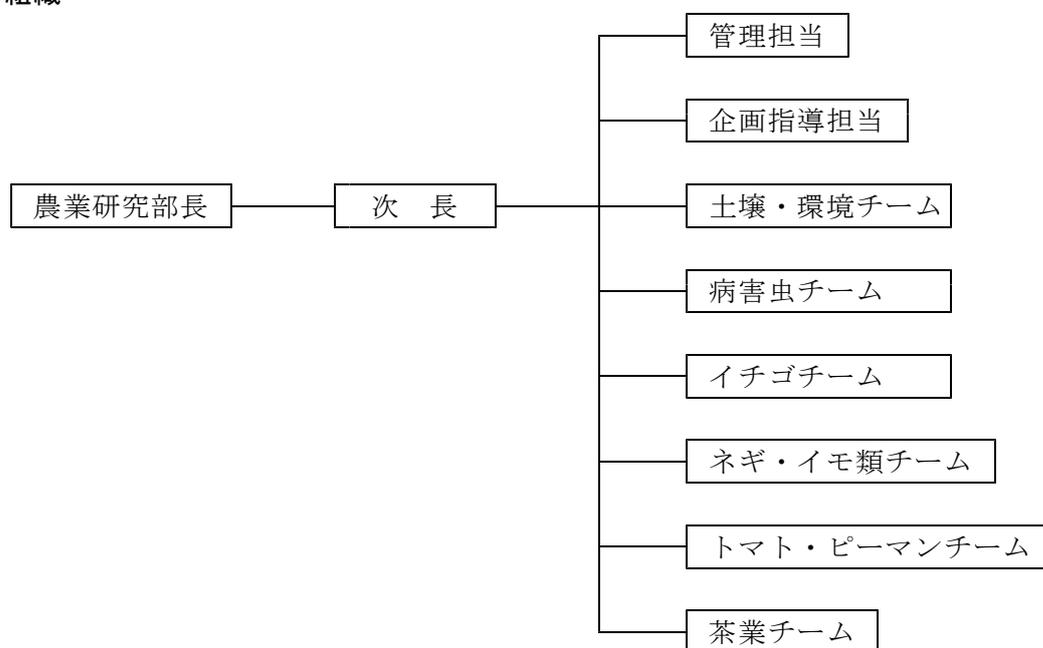


II-1 農業研究部

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

平成27年4月1日現在

組織	職 種		技師	労務技師	業務技師	事務補佐	計	備 考
	事務	技術						
部 長		1					1	
次 長	1						1	
管 理 担 当	5					1	6	
企 画 指 導 担 当		6					6	広域普及指導員 3
土 壌 ・ 環 境 チ ー ム		7		1			8	
病 害 虫 チ ー ム		9					9	
イ チ ゴ チ ー ム		5	1	1			7	
ネ ギ ・ イ モ 類 チ ー ム		4					4	
ト マ ト ・ ピ ー マ ン チ ー ム		5	1		1		7	
茶 業 チ ー ム		2	1				3	
計	6	39	3	2	1	1	52	

(3) 業務

- ① 土壌管理・施肥改善技術、土壌保全環境保全型農業技術
- ② 病害虫の発生予察・防除技術、環境保全型農業技術
- ③ イチゴの品種育成・選定、栽培技術、バイオ技術
- ④ ネギ・カンショ等の安定生産技術
- ⑤ トマト・ピーマンなどの品種選定、栽培技術
- ⑥ 茶の安定生産・高品質化技術
- ⑦ 生産者に対する研修及び現地指導

2. 試験研究課題 (1/6)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
I 産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業を実現するための研究開発				
1 ブランド化のための技術開発				
県間連携によるイチゴ新品種の育成				
1) 県間連携による品種育成と栽培技術の確立				
(1) 母本特性評価	イチゴチーム	山口県、鳥取県、島根県、岡山県、長崎県、九州農研セ	H25～27	県単
(2) 組合せ能力検定	〃	〃	〃	〃
(3) 選抜	〃	山口県、鳥取県、島根県、岡山県、長崎県、九州農研セ	〃	〃
2) 育種期間短縮のための交配、選抜方法の確立				
(1) 育種期間短縮のための交配方法の確立	イチゴチーム	なし	H25～27	県単
(2) 育種期間短縮のための選抜、評価方法の確立	〃	〃	〃	〃
(3) 育種短縮技術を用いた交配、選抜による有望系統の育成				
①実生系統選抜、二次系統選抜、三次系統選抜、四次系統選抜	イチゴチーム	なし	H25～27	県単
②五次系統選抜の栽培技術	〃	イチゴ品種育成支援プロ	〃	〃
③育成系統「大分5号」「大分6号」の栽培技術	〃	〃	〃	〃
DNAマーカーを用いた県育成品種識別法と効率的選抜育種技術の開発				
1) わい性トルコギキョウ品種の識別技術確立	イチゴチーム	花きグループ	H26～28	県単
2) 立枯病害抵抗性選抜マーカーの作成				
(1) 立枯病抵抗性遺伝様式の解明	イチゴチーム	花きグループ	H26～28	県単
(2) 立枯病抵抗性選抜DNAマーカーの探索	〃	〃	〃	〃
ホオズキの需要に即した優良系統選抜と効率的な種苗生産技術の確立				
3) 薬培養条件の検討	イチゴチーム	花きグループ	H26～27	県単
2マーケット起点のものづくりを支える技術開発				
栽培情報モニタリングによるイチゴ最適管理技術				
1) 栽培環境が単収に及ぼす影響調査				
(1) 年内の夜間温度の違いが展開葉速度に及ぼす影響	イチゴチーム	各振興局	H25～27	県単
(2) 定植時期および遮光の有無が頂果房と第一次腋果房の出蕾時期と果房間葉数に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
(3) 元肥の違いが生育、収量に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
2) 現地実証	〃	産科セ、広域普及指導員、各振興局	〃	〃
安全生産技術に対する研究				
1) 病害虫防除対策				
(1) 病害に対する薬剤選定	病害虫チーム	各振興局	長期	県単 一部委託
(2) 虫害に対する薬剤選定	〃	なし	〃	〃

2. 試験研究課題 (2/6)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
夏秋トマトのすすかび病と線虫類の防除対策				
1) すすかび病対策				
(1) 発生実態の解明	病害虫チーム	豊肥振興局、西部振興局	H26～28	県単
(3) 有効な薬剤の探索				
① 圃場での防除効果	病害虫チーム	なし	H26～28	県単
② 薬剤感受性検定	〃	豊肥振興局、西部振興局	〃	〃
2) 線虫対策				
(1) 発生実態の解明	病害虫チーム	豊肥振興局	H26～28	県単
(2) 防除対策の確立				
① 液剤の灌注時期	病害虫チーム	なし	H26～28	県単
② 粒剤の防除効果比較	〃	豊肥振興局	〃	〃
③ キルパー灌水処理による防除効果	〃	なし	〃	〃
(3) 現地実証試験	〃	豊肥振興局、西部振興局	〃	〃
小ネギの冬期増収に向けた栽培技術の改善				
1) 栽培基準の見直し				
(1) 播種量、施肥方法の検討	ネギ・イモ類チーム	なし	H25～27	県単
2) 冬期栽培に適した施肥技術の検討				
(2) 施用する窒素形態の検討				
① アンモニア態窒素肥料と硝酸態窒素肥料の窒素利用効率の比較	土壌・環境チーム	ネギ・イモ類チーム	H25～27	県単
② CDU入り元肥の肥効パターンの解析	〃	〃	〃	〃
ニラの作型改善のための品質、収量向上技術の確立				
1) 作期の前進化による収量確保				
(1) 品種、播種時期の検討	ネギ・イモ類チーム	なし	H25～27	県単
根深ネギの夏秋期出荷量不足打開に向けた安定生産技術の確立				
1) 萎凋病および白絹病の防除技術				
(1) 萎凋病、白絹病の発生実態の解明				
① 時期別発生消長調査	病害虫チーム	北部振興局	H27～29	県単
② 現地の栽培管理調査	〃	〃	〃	〃
③ 土壌環境調査	〃	〃	〃	〃
④ 残渣が土壌病害に与える影響	〃	なし	〃	〃
⑤ 茎盤部の硝酸態窒素濃度が土壌病害に与える影響	〃	〃	〃	〃
(2) 有効な薬剤の探索				
① 萎凋病に対する有効薬剤の検討	病害虫チーム	北部振興局	H27～29	県単
② 白絹病に対する有効薬剤の検討	〃	〃	〃	〃
③ 白絹病の耐性菌調査	〃	〃	〃	〃
(3) 耕種的な防除対策の確立	〃	〃	〃	〃

2. 試験研究課題 (3/6)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
2) 「スーパー大苗」による夏越し作型安定化技術				
(1) スーパー大苗育苗技術の確立				
① 株間可変育苗時の養分供給方法の違いが苗の生育に及ぼす影響	ネギ・イモ類 チーム	なし	H27～29	県単
② 培養土の種類と追加量及び添加資材の違いが苗の生育に及ぼす影響	〃	土壌・環境 チーム	〃	〃
③ 播種時期、株間可変育苗開始時期の違いが苗の生育に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
(2) 新たな夏越し作型における栽培管理方法の確立				
① 品種および追肥施肥量が生育、収量に及ぼす影響	ネギ・イモ類 チーム	なし	H27～29	県単
② 追肥及び土寄せ時期が生育、収量に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
農林水産物輸出拡大対策				
1) 青果物の品質保証				
(1) 大分県産カンショ「べにはるか」の糖度推定法の開発	ネギ・イモ類 チーム	(株)クボタ	H25～28	県単
農林水産物輸出拡大に関する研究開発				
1) 栄養性や機能性を活かした研究開発				
(1) 農業参入企業との農産物の内質調査研究	土壌・環境 チーム	なし	H27～28	県単
(2) 品種および栽培・肥培管理が農産物の内質に及ぼす影響	〃	〃	〃	〃
ネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシ既発生地における 発生実態の解明と生物的防除を核とした薬剤抵抗性管理技術の策定				
1) 大分県におけるネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシの発生実態	病害虫チーム	農研機構果樹 研、日本曹達 (株)、宮崎 県、和歌山県	H26～30	国庫 委託プロ
2) ネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシの寄生範囲の解明	〃	〃	〃	〃
3) 生物的防除資材とネオニコチノイド剤の代替薬剤による 防除体系の検討	〃	〃	〃	〃
4) 生物的防除資材であるテントウムシ類による防除効果の検討	〃	〃	〃	〃
シソサビダニが引き起こすオオバモザイク病およびさび症の防除体系の 確立				
1) 農業による防除技術の開発				
(1) シソサビダニの探索	病害虫チーム	中部振興局、 中央農研、高 知県、愛知 県、法政大学	H27～29	委託
2) 大分県における発生実態調査及び防除マニュアルの実証				
(1) シソモザイク病の発生消長調査	病害虫チーム	中部振興局、 中央農研、高 知県、愛知 県、法政大学	H27～29	委託
(2) アンケート調査	〃	〃	〃	〃
養液トマト栽培における <i>Pythium</i> 属菌の発生実態の解明				
1) 大規模現地生産法人施設における <i>Pythium</i> 属菌の発生実態の解明	病害虫チーム	トマト・ビー マンチーム、 土壌・環境 チーム、南部 振興局	H27	県単
2) 養液のpH調整による <i>Pythium</i> 属菌の発生抑制効果の検証	〃	〃	〃	〃
病害虫発生予察事業				
1) イチゴで採集したヒラズハナアザミウマに対する各種薬剤の殺虫効果	病害虫チーム	各振興局	H27	県単
2) イネいもち病のQoI剤耐性菌検定	〃	〃	〃	〃
農業残留特殊調査 (マイナー作物への登録拡大)	病害虫チーム	中部振興局	H25～27	県単、 一部国庫

2. 試験研究課題 (4/6)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
3 力強い担い手を育成するための技術開発				
緑茶飲料茶、「おおい茶グリーン」の収量、品質向上技術の確立				
1) 新需要に対応した多収安定生産技術の開発				
(1) 摘採適期予測技術	茶業チーム	なし	H25～27	県単
(2) 主要品種の秋冬番茶生産技術の確立	〃	〃	〃	〃
(3) 気象データの収集と最終摘採時期の解明	〃	〃	〃	〃
2) 「おおい茶」ブランド確立に向けた被覆栽培技術の高度化				
(1) 被覆・摘採適期判断技術	茶業チーム	(株)サタケ	H25～27	県単
(2) 品種毎の被覆適応性解明	〃	なし	〃	〃
(3) 高品質茶園の要因分析	〃	研究普及課、 土壌・環境 チーム	〃	〃
3) 栄養性適応性試験				
(1) 旧系適12群 (2) 旧系適13群 (3) 茶育成系統1群	茶業チーム	(国) 野茶研	H25～27	県単
「いつでも!大分産トマト」を目指した、省力・最適栽培管理技術の確立				
1) 安定生産のための省力・出荷量平準化栽培技術の確立(夏秋)				
(1) 中段密植栽培による出荷量平準化技術の確立				
① 二作型の検討	トマト・ピーマンチーム	なし	H26～28	県単
② 品種比較試験	〃	〃	〃	〃
(2) かん水施肥栽培システムの高機能化による出荷量平準化技術の確立				
① 飽差管理の検討	トマト・ピーマンチーム	なし	H26～28	県単
2) 最適栽培管理技術の確立 (冬春トマト)				
(1) 統合環境制御術の確立 (炭酸ガス施用)	トマト・ピーマンチーム	なし	H26～28	県単
(2) 軟化対策技術の確立 (水分管理)	〃	〃	〃	〃
3) 最適栽培管理技術の確立 (周年高精度栽培)				
(1) 軟果対策技術の確立 (温度管理)	トマト・ピーマンチーム	なし	H26～28	県単
(2) 軟果対策技術の確立 (品種比較)	〃	〃	〃	〃
夏秋ピーマン産地の次代を担う省力・安定生産技術の確立				
1) 高温耐性品種の選定				
(1) 品種選定	トマト・ピーマンチーム	なし	H27～29	県単
2) 施設管理省力化技術の確立				
(1) 硝酸態窒素主体の施肥体系	トマト・ピーマンチーム	なし	H27～29	県単
3) 高温対策技術				
(1) 夏期の遮光技術	トマト・ピーマンチーム	なし	H27～29	県単
4) 栽培および出荷調製作業省力化技術の確立				
(1) 株間と整枝方法の改善	トマト・ピーマンチーム	なし	H27～29	県単

2. 試験研究課題 (5/6)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
4 地球温暖化・環境対策等の技術開発				
チャの病害虫防除に関する研究				
1) チャの主要病害虫の発生予察に関する試験				
(1) 主要病害虫の発生状況調査	茶業チーム	病害虫チーム、東部振興局、中部振興局、北部振興局	長期	県単
(2) チョウ目害虫、クワシロカイガラムシ等の発生予察調査	〃	〃	〃	〃
2) チャの主要病害虫を対象とした委託試験				
(1) 新農薬の実用性判定試験 (日本植物防疫協会試験)				
① チャノココクモンハマキ	茶業チーム	日本植物防疫協会	H27	県単
② チャトゲコナジラミ	〃	〃	〃	〃
(2) 登録農薬の有効利用法の検討 (九防協連絡試験)				
① チャハマキの効率的防除試験	茶業チーム	九防協、福岡県、鹿児島県	H27	県単
② カンザワハダニの効率的防除試験	〃	九防協	〃	〃
③ チャトゲコナジラミの効率的防除法の確立	〃	〃	〃	〃
3) チャの病害虫防除対策試験				
(1) 主要病害虫の薬剤感受性検定				
① チャノミドリヒメヨコバイの薬剤感受性検定	茶業チーム	中部振興局、豊肥振興局、北部振興局	H26～28	県単
環境負荷を少なくする低コスト施肥技術の開発				
1) 農地土壌炭素貯留等基礎調査事業	土壌・環境チーム	全振興局、畜産技術室	H25～32	国庫委託
5 地域資源の活用と省エネルギーの技術開発				
製鋼スラグを利用した火山灰土壌(黒ボク土)のリン酸利用率向上技術の開発				
1) リン酸利用率の検討				
(1) 根深ネギ	土壌・環境チーム	関係振興局	H25～27	県単
2) 環境負荷への影響の検討	〃	〃	〃	〃
3) 現地実証試験	〃	〃	〃	〃
平坦地への作付け拡大に向けた水稻品種「つや姫」の高品質・安定生産				
1) 施肥基準の確立				
(1) 施肥技術				
① 分施体系における窒素吸収量の解明	土壌・環境チーム	水田農業グループ	H25～27	県単
② 全量元肥体系における窒素吸収量の解明	〃	〃	〃	〃
大麦焼酎粕濃縮液の肥料成分利用技術の確立				
1) 濃縮液特性解明				
(1) 分解特性の解明	土壌・環境チーム	なし	H25～27	県単
(2) 窒素成分発現量の解明				
① 畑作物への適用性解明	土壌・環境チーム	なし	H25～27	県単
2) 環境に及ぼす影響解明				
(1) 土壌化学性調査	土壌・環境チーム	なし	H25～27	県単
(2) 地下浸透水調査	〃	〃	〃	〃

2. 試験研究課題 (6/6)

試験研究課題名 I 大課題 1 中課題 1) 小課題 (1) 試験項目	担当	連携機関	研究期間	予算区分
II 研究を支える基礎調査と優良種苗等供給体制の確立				
イチゴ、カンショの茎頂培養によるウイルスフリー苗の育成				
1) 「大分6号」ウイルスフリー系統の生産力検定	イチゴチーム	なし	長期	県単
イチゴのウイルスフリー苗の育成	イチゴチーム	なし	長期	県単
カンショのウイルスフリー苗の育成	ネギ・イモ類 チーム	イチゴチーム	〃	〃
カンショの品種選定	〃	九沖農研セ	〃	〃

3. 研究成果等の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

刊行物誌名	刊行年月日	頁数	部数
平成26年度農業研究部試験研究成績書	H27. 6月	420	50
環境制御マニュアル (にら)	H28. 2. 9	3	データ
平成27年度植物防疫事業成績書	H28. 3. 31	70	300

(2) 学会誌、専門誌等への投稿 (1/2)

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載頁
岡崎真一郎	夏秋ピーマン圃場でのトマト黄化えそウイルス (TSWV) とミカンキイロアザミウマを含めた総合防除の取り組み - 1. 冬期伝染環の解明 -	植物防疫	第69巻	712-717
岡崎真一郎	夏秋ピーマン圃場でのトマト黄化えそウイルス (TSWV) とミカンキイロアザミウマを含めた総合防除の取り組み - 2. 宿主内のTSWV量とミカンキイロアザミウマによる獲得頻度の関係およびTSWV保毒虫モニタリング手法の開発 -	植物防疫	第69巻	802-806
岡崎真一郎	夏秋ピーマン圃場でのトマト黄化えそウイルス (TSWV) とミカンキイロアザミウマを含めた総合防除の取り組み - 3. 媒介虫ミカンキイロアザミウマに対する防除対策の確立 -	植物防疫	第70巻	161-165
岡崎真一郎	トマト黄化えそウイルス (TSWV) と媒介種であるミカンキイロアザミウマの総合防除に関する研究	九州病虫害研究会報	第61巻	75-76
福本律子、鈴木智範、田中啓二郎、山崎修一	平成26年度の夏秋トマト栽培におけるすすかび病の発消長及び発生子察調査基準の検討	九州病虫害研究会報	第61巻	83
鈴木智範、福本律子、姫野和洋	2014年におけるネコブセンチュウ被害圃場の線虫種について	九州病虫害研究会報	第61巻	90

(2) 学会誌、専門誌等への投稿 (2/2)

執筆者	論文名	掲載誌名	巻(号)	掲載頁
井上美樹、今村香織、岡崎真一郎	イチゴで採集したヒラズハナアザミウマに対する各種薬剤の殺虫効果	日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨集	第76回 第60回	16
米田恵美、岡崎真一郎、佐藤善人	施設輪ギクにおけるミナミキイロアザミウマの発生消長と各種薬剤の殺虫効果	日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨集	第76回 第60回	16
岡崎真一郎、姫野和洋、井上美樹、山崎真居、土田聡	大分県におけるネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシの発生実態	日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨集	第76回 第60回	19
伊藤玲央	チャハマキ成虫に対するシアントラニプロール剤の殺虫活性	日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨集	第76回 第60回	25
上曾山大、安部貞昭、山崎真居	イチゴ育成系統「大分5号」の栽培技術	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第78回	123
清松慎司、姫野和洋	タバコガ類防除のための防虫ネット全面展張方法の開発	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第78回	138
濱田翔子、奈良絵美	遮光資材を利用したニラの葉先枯れ抑制技術	九州農業研究発表会専門部会発表要旨集	第78回	142
山田晴夫、大塚美希	夏秋トマトの裂果等の生理障害対策技術について	農耕と園藝	2016年 1月号	17

(3) 研究会、学会等での発表 (1/2)

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H27. 8. 27	第78回九州農業研究発表会	上曾山大	イチゴ育成系統「大分5号」の栽培技術
H27. 8. 27	第78回九州農業研究発表会	清松慎司	タバコガ類防除のための防虫ネット全面展張方法の開発
H27. 8. 27	第78回九州農業研究発表会	濱田翔子	遮光資材を利用したニラの葉先枯れ抑制技術
H27. 10. 30	平成27年度九州沖縄農業試験研究推進会議 野菜・花き推進部会 遺伝子研究連絡会	深蔵知花	平成27年度遺伝子研究連絡会
H27. 12. 14-15	第3回生態と防除研究会	福本律子	限られた期間で試験研究をより良く進めるためには ~若手の視点から~
H28. 2. 2	九州農業研究推進会議	池永亜希子	栽培情報モニタリングによるイチゴ最適管理技術 排液濃度が生育及び収量に及ぼす影響

(3) 研究会、学会等での発表 (2/2)

発表年月日	研究会、学会等の名称	発表者	発表課題名
H28. 2. 2	九州農業研究推進会議	竹下和希	「さがほのか」において定植時期および遮光の有無が出らい時期および花数に及ぼす影響
H28. 2. 3	九州農業研究推進会議	山野秀真	冬春トマトにおける変温管理を用いた二酸化炭素施用効果の実証
H28. 2. 3	九州農業研究推進会議	大塚美希	夏秋トマトにおける気化冷却装置による飽差管理
H28. 2. 3	九州農業研究推進会議	藪野航大	夏秋トマトにおける優良品種の選定
H28. 2. 4	第91回九州病害虫研究会研究発表会	姫野和洋、松浦明、岡崎真一郎、玉野井 昭、山崎真居、土田聡	ネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシの寄主別増殖率の調査
H28. 2. 4	第91回九州病害虫研究会研究発表会	岡崎真一郎、井上美樹、上杉龍士、長坂幸吉	ビーマン施設内の三尺ソルゴーに発生したアブラムシ類から確認された一次寄生蜂種
H28. 2. 4	第91回九州病害虫研究会研究発表会	福本律子、鈴木智範、山崎修一	夏秋トマト栽培におけるすすかび病の発病と植物体内硝酸イオン濃度との関係
H28. 2. 4	第91回九州病害虫研究会研究発表会	世古雅一、田中啓二郎	大分県の白ネギにおける萎凋病の発生消長と耕種的防除
H28. 2. 22	平成27年度九州・沖縄地方への気候変動影響適応対策推進に向けた地域ワーキンググループ	佐藤郁	大分県の気象観測と研究事例について
H28. 3. 21-23	平成28年度日本植物病理学会大会	久保田健嗣、岡田知之、市川耕治、田中啓二郎、宇杉富雄、富高保弘、津田新哉	シソモザイクウイルスの遺伝的多様性
H28. 3. 26	日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会	伊藤玲央	チャハマキ成虫に対するシアントラニリプロール剤の殺虫活性
H28. 3. 28	日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会	岡崎真一郎、姫野和洋、井上美樹、山崎真居、土田聡	大分県におけるネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシの発生実態
H28. 3. 28	日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会	井上美樹、今村香織、岡崎真一郎	イチゴで採集したヒラズハナアザミウマに対する各種薬剤の殺虫効果
H28. 3. 28	日本昆虫学会第76回大会・第60回日本応用動物昆虫学会大会合同大会	米田恵美、岡崎真一郎、佐藤善人	施設輪ギクにおけるミナミキイロアザミウマの発生消長と各種薬剤の殺虫効果

(4) 研究成果発表会

発表会の名称	開催年月日	開催場所	発表課題数	参加者数
トマトの総合的な裂果対策技術（副知事報告）	H27. 8. 24	県庁81会議室	1	20
トマトの総合的な裂果対策技術（知事報告）	H27. 9. 7	知事室	1	15

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会の開催（1/2）

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考（共催、要請機関等）
H27. 4. 7	ピーマンウイルス病対策説明会	豊後大野市	100	大分県農協豊後大野事業部
H27. 4. 9	ピーマンウイルス病対策説明会	竹田市	30	大分県農協竹田事業部
H27. 4. 15	サニープレイスファーム現地検討会	佐伯市	8	南部振興局（以降ほぼ月1回実施）
H27. 4. 16	ピーマンウイルス病対策説明会	大分市	24	大分夏秋ピーマン連絡協議会役員会
H27. 4. 22	ピーマンウイルス病対策説明会	臼杵市	20	県たばこ耕作組合
H27. 5. 3	専門技術研修（基礎・茶）	農業研究部	6	研究普及課
H27. 5. 21	専門技術研修（基礎・茶）	農業研究部	6	研究普及課
H27. 5. 27	病害虫防除員新任者研修会	農業研究部	5	
H27. 6. 4	普及指導員専門技術研修（安全農業）	農業研究部	20	研究普及課
H27. 6. 5	専門能力強化研修（土壌肥料基礎）	豊後大野市	16	研究普及課
H27. 6. 16	課題解決研修（茶）	農業研究部	9	研究普及課
H27. 6. 21	「おおいたの茶人」研修会	農業研究部	10	日本茶インストラクター協会大分県支部
H27. 6. 23	普及指導員専門技術研修（野菜・基礎）	農業研究部	20	研究普及課
H27. 6. 24	普及指導員専門技術研修	豊後大野市	4	研究普及課
H27. 6. 26	無人ヘリ講習会	産業科学技術センター	50	おおいたブランド推進課
H27. 6. 26	専門技術研修（基礎・茶）	農業研究部	6	研究普及課
H27. 6. 27	キクウイルス病対策説明会	玖珠町	25	西部振興局
H27. 7. 22	課題解決研修（茶）	農業研究部	9	研究普及課
H27. 7. 23	第46回大分県茶品評会審査会	農業研究部	13	大分県茶業協会

(1) 講習会、研修会の開催 (2/2)

開催年月日	講習会、研修会等の名称	開催場所	参加者数	備考(共催、要請機関等)
H27. 7. 29	大分県園芸活性化協議会ピーマン研修会	臼杵市	150	園芸振興室
H27. 7. 29	大分ピーマン栽培研修会	臼杵市野津町	80	JAおおいた、全農
H27. 8. 11	トマト園芸技術者協議会	竹田市	40	JAおおいた、全農
H27. 9. 4	普及指導員専門技術研修	豊後大野市	4	研究普及課
H27. 9. 16	ドリンク茶専用法人生産対策研修会	宇佐市	33	県内ドリンク茶法人
H27. 9. 28	大分県品評会茶及び仕上げ上茶研修会	農業研究部	18	大分県茶業協会
H27. 9. 29	大分県茶品評会研修会	大分市	50	大分県茶業協会
H27. 9. 29	タイ王国農業リーダープロジェクト研修	豊後大野市	30	タイ国農業・共同組合省
H27. 10. 7	土壌肥料・病害虫研修会	大分市	100	おおいたブランド推進課
H27. 10. 9	普及指導員専門技術研修	豊後大野市	4	研究普及課
H27. 10. 29	ピーマンウイルス病対策育苗指導	熊本県大津市	10	豊肥振興局
H27. 10. 30	ピーマンウイルス病対策説明会	玖珠町	30	西部振興局
H27. 11. 24	ピーマン部会研修会	豊後大野市	50	JAおおいたピーマン部会
H27. 11. 24	JAおおいた豊後大野ピーマン部会研修会	豊後大野市	100	大分県農協豊後大野事業部
H27. 11. 26	大分夏秋ピーマン連絡協議会品種検討会	大分市	20	JAおおいた、全農
H27. 12. 2	農業研究部・グループ合同研修会	別府市	33	農業研究部
H27. 12. 3	施肥・防除対策研修会	大分市	150	おおいたブランド推進課
H28. 2. 8	農薬指導士認定研修	大分市	150	おおいたブランド推進課
H28. 2. 9	九州・沖縄地区植物防疫関係者研修会	佐賀市	50	九州沖縄地区病害虫防除所職員連絡協議会、九州農政局
H28. 2. 9	ドリンク茶専用法人品質管理研修会	大分市	36	園芸振興室
H28. 2. 12	園芸活性化協議会ピーマン研修会	農業研究部	30	園芸活性化協議会
H28. 2. 26	大分園芸活性化協議会トマト研修会	農業研究部	30	園芸活性化協議会
H28. 2. 26	平成27年度大分県茶流通研修会	杵築市	41	大分県茶業協会
H28. 3. 10	豊後高田市認定農業者組織視察研修	豊後大野市	15	豊後高田市認定者組織

(2) 受入研修

① 長期研修者受け入れ

対象者	所属	研修内容	期間
上野 純輝	農業大学校	夏秋ピーマンの整枝試験	H27. 5. 12～11. 27
吉田 克成	農業大学校	生及び乾燥アオサを活用したスイートコーン及びトマト栽培	H27. 5. 8～11. 20
吉武 大輝	農業大学校	摘採機・裾刈機の使い方、肥料散布機の使い方、防除の仕方（マシン油）	H27. 8. 5～11. 12
戎 歩夢	農業大学校	摘採機・裾刈機の使い方、肥料散布機の使い方、防除の仕方（マシン油）	H27. 8. 5～11. 12
首藤 啓之	農業大学校	摘採機・裾刈機の使い方、肥料散布機の使い方、防除の仕方（マシン油）	H27. 8. 5～11. 12
衛藤 竜誠	農業大学校	摘採機・裾刈機の使い方、肥料散布機の使い方、防除の仕方（マシン油）	H27. 8. 5～11. 12

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

対象者	件数	受入人数
生産者	28	139
団体等職員	15	27
普及指導員	40	92
学生	2	2
児童・生徒	1	30
海外からの視察者	8	34
その他	0	0
計	94	324

※大学
※小中高校

(3) 指導・研修プロジェクトの実証 なし